

仙台城跡および周辺エリアに期待される役割について

1. 杜の都のシンボルとしての役割

○青葉山一帯

→歴史的資源と貴重な自然が残る杜の都を代表する地域（現行総合計画）

○青葉山・国際センター地区

→都市の新たな魅力を創造・発信するシンボルゾーン（現行総合計画）

○青葉山公園

→杜の都仙台のシンボルとしての公園（青葉山公園整備基本計画）

公園センター（青葉山公園・仙台城跡の玄関口「憩う・集う・楽しむ」場所）

→歴史・文化をつなぐ緑の拠点として一体的なエリアを形成（広瀬川を取り囲む西公園・大年寺山公園と連動）（現行総合計画）

○仙台城跡や青葉山公園の整備

→歴史と風格を感じるまちづくりを推進（歴史文化資源の保全と活用）

2. 学びの場としての役割

○地域の歴史や文化の学びの場

→仙台の自然・歴史資産など学びの資源の発掘・発信による地域への愛着喚起

→博物館等、歴史文化施設の連携、文化財サポーターの育成（現行総合計画）

○仙台城跡における調査・研究に基づく学びの機会の提供

→市民や子供たちが仙台の歴史に親しみ学び、観光客がより一層楽しめる機会の創出（第2期教育振興基本計画）

○歴史的・文化的資源の保全や発信に取り組む諸団体との連携

→新しい学びの機会の創出、資源の魅力向上

3. 活力の場としての役割

○史跡など観光資源の魅力を拡大し東北全体へ情報発信

→東北の交流人口拡大（現行総合計画）

○地下鉄沿線のまちづくり（国際センター駅）

→仙台城跡整備や青葉山公園整備などにより多様な魅力を磨き、新たな交流が生まれる学術文化交流拠点の形成を目指す。（東西線沿線まちづくりの基本方針）